



—【芥川賞】—

👑『送り火』 高橋 弘希 (文藝春秋 Fタ)

—【直木賞】—

👑『ファーストラヴ』 島本 理生 (文藝春秋 Fシ)



図書館でクールシェアしよう♪

「クールシェア」とは、夏の暑い時間帯に各家庭でエアコンを使用するかわりに、公共施設などに出かけて、みんなで涼しい場所を共有（シェア）することです。愛知県では「クールシェア 2018」というキャンペーンを実施しており、クールシェアに参加すると抽選で扇風機などが当たります。クールシェアするならぜひ図書館へ！（キャンペーンの詳細は館内にあるチラシをご覧ください）

休館日

8月の休館日

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

9月の休館日

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

■ は本館の休館日です

※8月は月末休館日がありません。

8月のギャラリー

図書館を使った調べ学習講座 参加者作品展

期 間：8月14日（火）～31日（金）
※ギャラリーの展示は17時までです

編集後記

中学の夏休み、友人に薦められて『燃えよ剣』（司馬遼太郎/著 新潮社）を読み、幕末や明治初期を舞台にした図書やマンガにハマった時期があります。遠い昔のことなので内容はほとんど覚えていませんが、エアコンのない自分の部屋で汗をかきながら読んでいたという夏の思い出だけは残っています。みなさんは無理をせず、涼しい場所（といえば図書館！）で読書を楽しんでください。（か）

けやきどおり通信 (No.299)

編集・発行 碧南市民図書館

〒447-0057
碧南市鶴見町1-70-1
TEL: (0566) 41-0894



けやきどおり通信



2018年8月 ～NO. 299～



2018年は、明治元年(1868年)から満150年という節目の年に当たります。江戸時代が終焉を迎えて明治時代になると、国の近代化が急速に進められます。大日本帝国憲法の制定や税制度の見直し、義務教育の導入、郵便制度の施行、鉄道の普及、工業化の推進など、西洋列強に肩を並べようと多くの取り組みが進められていきました。

あらゆる面でめまぐるしい変化が起こる中、人々は自分の進む道をどう切り拓いていったのでしょうか。今回の特集では、「幕末・明治」と聞いてすぐに思い浮かぶような有名人だけでなく、あまり注目されてこなかったような人物や出来事について書かれた資料も集めてみました。時代は違えど、変化に富む現代を生きる私たちにとって、何か参考にできる部分もあるのではないのでしょうか。

『^{きよざわまんし}清沢満之と日本近現代思想』

山本 伸裕/著 明石書店 (188キ)

碧南ゆかりの偉人・清沢満之。東京大学で西洋哲学を学んだのち宗教界に入った彼は、仏教における他力の発想と西洋から学んだ論理とを結びつけ、従来の価値観が根底から揺れ動いた明治時代に、人々の寄る辺となる思想を提示しようとした。日本思想史に多大な影響を残したにも関わらず、世間的にはあまり知られていない宗教哲学者・清沢満之の生涯と思想を紹介する。

『幕末・明治偉人たちの「定年後」』 河合 敦/著 WAVE 出版 (281バ)

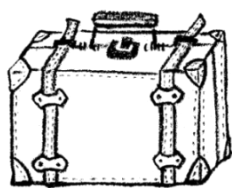
高齢社会となった今、定年後の長い人生をどう生きるのか。政治の第一線から退いたのち社会福祉事業に私財を投じた板垣退助。バルチック艦隊を撃破した功績により軍部や政治への強い影響力を死ぬまで持ち続けた東郷平八郎。主君・徳川慶喜への恩義から新政府への出仕を断り、在野にあり続けた高橋泥舟^{でいしゅう}など、幕末から明治に活躍した偉人たちのユニークな第二の生き方を紹介する。



『汽車に乗った明治の文人たち』

出口 智之/編 教育評論社 (915キ)

明治時代の中頃、急速に普及した鉄道網を使って人々はどのように旅をし、何を感じていたのだろうか。尾崎紅葉、森鷗外、正岡子規など明治の文人たちが記した鉄道紀行から、車内で弁当や酒を楽しむ人々の姿や車窓からの眺め、今ではもう見ることのできないレール上の小さな客車を人力で動かす人車鉄道の様子など、明治の汽車旅がよみがえる。



『幕末明治異能の日本人』

出久根 達郎/著 草思社 (281バ)

六百余りの町や村を再興し、人のために尽くした二宮金次郎。森鷗外や夏目漱石とともに明治の三文豪とうたわれる幸田露伴。江戸無血開城の功労者・山岡鉄舟。新聞「日本」の創刊者でジャーナリストの陸羯南^{くがかつなん}など、今まで脚光を浴びてこなかった傑物たちの生涯を掘り起こした一冊。二宮金次郎には、茄子を食べて飢饉になることを予測したというエピソードもあり、各偉人たちの意外な一面を知ることができる。

『明治日本の産業革命遺産』

岡田 晃/著 集英社 (602×)

2015年、山口県の^{にらやまはんしゃう}韮山反射炉や現在も稼働中の三菱長崎造船所の巨大クレーンなど8県にまたがる23の施設が「明治日本の産業革命遺産」として世界遺産に登録された。幕末から明治にかけ、欧米列強による侵略という危機に直面していた日本。危機的状况から国を救うため、政治的な対立を乗り越えて協力し合い、多くの失敗や挫折を克服して、日本のものづくりの原点を築いたラストサムライたちの挑戦を描く。

『明治日本のナインゲールたち』 今泉 宜子/著 扶桑社 (369.1×)

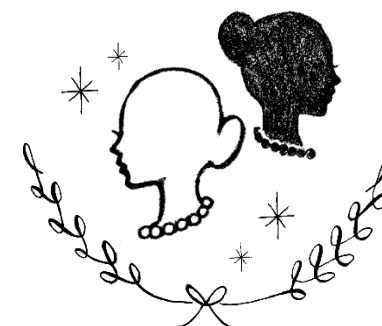
明治45年、戦争で傷ついた兵士への救護活動が主であった世界の赤十字に対し、明治天皇の後・昭憲皇后は、災害救護や開発支援事業も行えるよう多額の寄付をした。この「昭憲皇太后基金」と呼ばれる国際協力基金は、設立から100年以上経過した現在においても、エイズ差別や人身売買などさまざまな困難に直面している人々への支援事業に役立てられている。ほとんどの日本人が知らない、明治日本発の偉業を紹介。

『明治乙女物語』 滝沢 志郎/著 文藝春秋 (Fタ)

明治中期。鹿鳴館時代ともいわれ、欧化主義の華やかな頃。教育者になるため、東京の高等師範学校女子部に通う夏と咲たちは、舞踏会の踊り手として鹿鳴館に招待される。そこには、伊藤博文枢密院議長はじめ初代文部大臣の森有礼など政府の要人たちと、彼らを狙う暴徒の姿があった…。「女に学問はいらぬ」という風潮にも負けず、新しい時代に羽ばたこうとする“戦う乙女”たちの物語。

『幕末三百藩古写真で見る最後の姫君たち』
『歴史読本』編集部/編 KADOKAWA (281バ)

新政府により藩を解体され、北海道開拓の道へと進んだ仙台藩最後の姫君や、戊辰戦争時に箒城女性たちの心の支えとなった会津藩の姫君など、時代に翻弄された姫君たちの波乱万丈な人生を貴重な写真とともに紹介する。



『^{つきおかよしとし}月岡芳年』 岩切 友里子/監修 平凡社 (721ツ)

武者絵の名手・歌川国芳から学んだ浮世絵の画法を守りつつ、新しい画題や表現方法にも挑戦して明治浮世絵界の大家となった月岡芳年。晩年の大作「^{つきのひやくし}月百姿」や幻の版下絵「^{かんきょひやくらん}看虚百覧怪」など約230点を収録。幕末・明治を生きた奇才絵師の魅力に迫る。

『浮世絵師たちが描いた明治の風俗』 河出書房新社 (382ウ)

「江戸」を描いてきた絵師たちが見た新しい時代の姿とは…。

『拙者は食えん!』 熊田 忠雄/著 新潮社 (383.8セ)

初めて洋食を食べたサムライたちの苦悩と感動の日々を紹介する面白歴史エッセイ。

『天皇のダイニングホール』 山崎 綱介ほか/著 思文閣出版 (210.6テ)

明治天皇が使用した宮殿建築の遺構から当時の宮廷外交の実情を解き明かす。